

第6号 2001年9月10日

発行 医療法人社団健友会/健友会友の会
〒164 0001 中野区中野5 44 3
TEL 03 3387 3051
FAX 03 3388 1381
編集 「健友(けんゆう)」編集委員会
ホームページアドレス www.kenyou-kai.or.jp/

健友



吉田信夫・画

中野通りの交差点
中野区と杉並区の区
界にある「中野通り」
の下井草一丁目付近。



第1日目の開会総会

ふるさとの街焼かれ/身寄りの骨埋めし焼け土に/いまは白い花咲く/ああ許すまじ原爆を/みたひ許すまじ原爆を/われらの街に

小泉首相の靖国神社公式参拝、「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書をめぐって、熱いバトルが交わされた今夏。戦争と平和について考え、行動する健友会の青年たち九人が原水爆禁止二〇〇一年世界大会・長崎に参加しました。そんな青年たちの声をお届けします。



勢ぞろいした代表団。前列左から坂口(団長)、小嶺、鈴木原、後列左から朝倉、前田、長谷川、本田、橋詰各代表

2度と戦争は起こさせない
原水禁大会に参加した健友会の青年たち

参加者のひとこと

朝倉友也
(中野共立病院健康管理室)
長崎を歩いた。とてもいい街で、原爆が落とされたなんて信じられない。街を歩いたり、勉強したことで平和への思いを強くした。

小嶺麻紀子
(西荻みなみ薬局薬剤師)
被爆者の話を聞いた。自殺しようとした話、自分の親を自分で焼いた話など、悲惨な話だった。核兵器はなくさないかと思ふ。
長谷川綾子
(中野共立病院作業療法士)
いま、日本はかなり深い

刻なところまで戦争に近づいている。黙っていてはどんどん状況は悪くなっていく。自分から行動しなくてはと思う。
本田涼子
(中野共立病院放射線技師)
ヒロシマ・ナガサキは戦争の延長線、それ以外には実験や開発だ。政府はその実態を見て見ぬ振り

をしている。許せない。
原里紗子
(天沼診療所事務)
被爆者の話は衝撃的だった。浦上天主堂は屋根が爆風で落ちたままになっている。原爆を落とすなんて人間のすることじゃない。
鈴木安芸子
(中野共立病院看護婦)

参加者の三分の一以上が若者だったのはびっくりした。被爆体験を直接聞けるのは私たちが最後かもしれない、と思いつつ話を聞いた。
坂口恵子
(中野共立病院看護婦)
戦争の歴史を知らなかった。戦争の悲惨さ、愚かさを、伝えていくこと

が私たちの使命だと思ふ。人が人を傷つけてはいけない。
橋詰秀剛
(東京医療問題研究所事務)
日本は戦争をしなけり、犯罪を犯した。その結果、原爆が投下された。戦争を二度と起こさないために、学んだことをみんなに伝えていこう。

大会レポート

前田寛史

(中野共立病院事務)

メイン会場となった長崎県総合体育館(通称IIかぶとがに)は六五〇〇人の人であふれ、会場は冷房が効いていてとても涼しいのに、熱気でムンムン。横長の会場の壇上には海外の代表たちがズラリと並び、おごそかな感じがして、思わず心が引き締まりました。「ほんとうに国際会議に参加しているんだ！」

八月七日の開会総会では、国内代表、海外代表がつぎつぎと発言し、各地でのたたかいや熱い思いが伝わってきました。一番印象に残ったのは、韓国人被爆者の方の「日本人だけが被害者ではない」「核兵器や戦争

署名というのは、地味で根気のいる活動です。でも、一人一人の力が確実に行政を動かしていく。ぼくの署名にたいする認識が、このとき変わったよつな気がします。
八日の夜は、「ピースジャム」という青年たちの集いに、健友会の代表みんなで参加しました。さまざま活動報告のほか、長崎の被爆者・松谷英子さんが「若い世代に託すこと」というお話をされたり、ウクライナの二〇歳の美人歌手、ナターシャ・グジーさんと一緒に歌う企画もあり、とても楽しい集会でした。「ぼくたちもなにかやりたい」という思いがあふれてきました。

九日、朝から雨になった最終日。閉会総会で、両手をふりながら参加者みんなで大合唱した感動は、きつと生涯忘れないだろうと思います。
We shall overcome
We shall overcome
We shall overcome

「私の主張」が好評だった
—健友会友の会「高齢者のつどい」—
健友会友の会の「長寿万歳!高齢者のつどい」が八月二八日、なかの芸能小劇場で開催され、友の会員、職員ら一〇〇名



奈切敏郎さん(57)

地域に根づいた音楽活動を

日本フィル交響楽団チエリスト



福島県出身。趣味は世界のビールを飲むこと。奥様はハープ奏者。
「この争議が私の音楽活動の支え。地域での演奏で、鍛えられ、励まされてきた」といいます。
「二年間、毎月開いている喫茶「ミニヨン」でのコンサート。桃井診療所待合室での演奏会(友の会主催)も六回目。全国に広がっていきたい」が夢です。

空ひばり伝(雑鳥編)と、共立友の会のフラダンスを楽しみました。
来年の「高齢者のつどい」では「高齢者年表宣言」を確認できるようにしよう、と誓い合いました。(藤井)

わたし

八月十五日
靖国神社に行ってみました
入り口の神門には直径一・五メートルの菊の紋章。境内に並ぶ兵器の群れ。流れる「同期の桜」の合唱。
花の都の靖国神社/春の梢に咲いて会おう。靖国は、まぎれもなく、天皇のための戦争神社です。「かく戦えり。近代日本」と題された特別展にも驚きました。明治から「大東亜戦争」に至る日本の侵略戦争を「国難」「悠久の大義」とたたえあげているのです。総理大臣の靖国参拝は「日本の戦争は正しかった」と世界に宣言するのと同じことです。神社でくれた「靖国神社の概要」は、「御祭神」には従軍看護婦も含まれている、と説明されています。従軍看護婦は兵士に準じて、戦死者は「英霊」にされたのでした。いのちを救うのが看護婦の使命。それが、殺し、焼きつくした侵略戦争の要員として動員された歴史の事実。しっかりと見つめ直さなければ、と誓った二一世紀最初の夏でした。(よ)

小泉首相の「骨太方針」 医療費の大幅患者負担をねらう

小泉首相の「構造改革」の基本を示すものとして、「骨太方針」が発表されました。

この「骨太方針」の中の社会保障「改革」を見てみると、「『給付は厚く、負担は軽く』というわけにはいかない」「『自助と自律』の精神を基本に…痛みを分かち合って、制度を支える自覚でとりくむ」として、行政サービスや公的事業を民間企業に置き換え、その中心に医療費の総額抑制を打ち出す内容となっています。

まさに、社会保障や暮らしをねらい撃ちにして、国民に「激痛」を押しつけようというものです。

この医療費総額抑制の手法として、①総医療費の上限(キャップ)制、②保険外診療の拡大、③医療費の定額払い方式などが出されています。とくに老人医療費の削減に力を入れ、「目標となる医療費の伸び率」を設定し、削減効果について試算しています。

その試算では、上限を超える医療費は、どんなに必要な医療であっても保険給付の対象からはずされ、患者が医療費の全額を負担しなければなりません。

一方、公的医療保険の「守備範囲の見直し」と称して、これまで規制されていた保険外診療(自由診療、混合診療)を容認し、拡大させようとしています。

保険外の医療サービスは、現在、差額ベッドなどで認められているだけです。ところが、混合診療がすすめば、お金を出せば追加の医療サービスが買えるようになり、「所得によって受ける医療サービスに格差ができ、必要なサービスでもお金持ちしか利用できなくなる」ことで、医療行政の大転換をもたらします。

一方で、企業が決めたサービス料金を自由に患者から取ることができる医療市場をつくり、そこに儲け第一主義の株式会社を参入させて競争をあおり、医療費削減につなげるのが混合診療拡大のねらいでもあります。

小泉「改革」は、このような患者負担増をテコに、受診抑制による間接的な医療費削減の効果に加えて、医療費を直接削減する総額抑制方式をも実施しようとしています。

小泉内閣は、盛んに医療費が伸びていることを医療費削減の大きな根拠にしていますが、国内総生産(GDP)比で見ると、日本の総医療費はOECD(経済協力開発機構)加盟29カ国中21番目で、アメリカの半分くらいにしかありません。とても多いといえる状況ではありません。(山本芳郎編集委員)



ハープを煮だしたお湯で足浴をしてもらった宮田さん

介護保険がはじまって一年半。来月(10月)からは、六五歳以上の人の介護保険料がこれまでの二倍になります。年金以外に収入のない人からも容赦なく天引きされる保険料。介護保険ができて、きわめて個人的な問題だった介護が社会問題になったといわれる反面、保険料・利用料の高さが大きな矛盾となつて出てきています。また一方、「現在の介護保険の内容では足りない」



介護保険のその後を追う

という声も聞かれます。「保険料・利用料の減免を」「必要な介護を受けられるように内容の拡大を」と、介護保険の改善を求める運動が各地で起こっています。そこで、健友会の「ヘルパーステーションほっと」と利用者の実態を追いかけました。(ヘルパーステーションほっと 杉並/鈴木由美子)

五七歳の時脳梗塞で倒れ、右半身麻痺の後遺症で要介護2と認定、一時間の散歩介助を週二回受けているSさん(65)。銭湯が大好きで、「毎日入りたい」と、三十七年前に隣に銭湯があるこのアパートに移ってきました。妻と二人暮らしのため、好きな銭湯も一人で週一回しか入れませ

六円。一〇月からは倍の四五三二円になります。被爆者健康管理手当と障害年金(障害二級)の合計、月約一六万円がSさんの収入のすべてです。家賃が四万五〇〇〇円。月二回、中野共立診療所への通院に利用するタクシー代も、福祉タクシー券がカットされて出費が増えました。奥さん

壁づたいに歩きます。昨年九月、退院の際に要介護2と認定され、ベッドのレンタル、中野共立病院デイケアへの週一回の派遣(週一回、二時間)でなんとか生活しています。利用料は月六五〇〇円ほど。生活費は遺族年金と国民年金で一〇二〇〇〇

宅で介護しています。宮田さんは要介護5です。「日中、母を一人にしておけないから、介護保険では足りない分を自費で頼んでいる」「いまも会社役員として現役の上原さんは、日中はヘルパーを頼まないとやっていけません。利用料は、介護保険がなかったときは毎月二二万円くらいかかっていましたが、介護保険をフルに使うようになつてからは二二万円ほどに減りました。

「保険料・利用料を安く 介護内容は充実させて」

ん。「男性ヘルパーさんに、銭湯へ行く介助をしてもらいたい」という望みをもっています。九歳の時、長崎で被爆したSさんは、被爆者手帳を持っていて、この四月からの利用料は無料になりました。(それまでは月四〇〇〇円ほどかかっていた)保険料はいま、二人で二六

もいろいろな病気で通院中で、「あと五万円あれば…」といっています。Kさん(79)は三年前に夫が亡くなり、以来一人暮らしです。骨粗鬆症が進み、この四年間に三回も転倒で大腿骨骨折、両大腿とも人工骨頭置換術の手術を受けています。室内も前かがみで

円。自分で食事を作れないので、週四回配食サービスを受け、二カ所の病院への通院費もかさみます。介護保険料は来月から二二六六円に。「介護保険の負担は痛いネ」と話します。

上原和子さん(67)は実母の宮田喜久さん(93)を、七年前から自

病院診療所 すなづぶ 友の会

患者さんの意見で改善へ

中野共立病院・診療所
中野共立病院や共立診療所では、「意見箱」を置いて、ここに入られた患者さんの意見を医療水準、施設、接遇の改善につなげています。意見によつては関係する職場でしっかりと議論し、「お答え」を出します。診療所二階の問診コーナーに困いつけたのも、この活動の結果です。

看護学生と高校生が診療所に

江古田沼袋診療所
診療所での夏の風物詩といえは、看護学生の実習や高校生の一日看護体験があります。これも江古田沼袋診療所では、看護学生が五日間の看護実習に、高校生が一日看護体験に訪れています。

看護学生と高校生が診療所に

江古田沼袋診療所
看護学生の実習・実習をしていった高校生の中には、沼袋の看護婦さんみたくに「なりたい」とうれしい感想を寄せたり、「一緒に記念撮影をして下さい」と写真を撮って帰る人もいます。看護学生たちは、往診・訪問看護・心電図など、さまざまなことを体験し、診療所の医療・看護の良さを感じとってくれているようです。

健康講座ポケについて

城西診療所
七月五日(水)、城西診療所で健康講座を開催。一五名が参加しました。今回のテーマは「ポケについて」。講師は金子良子医師でした。関心の高い話題のせいか、参加者の会話ははずみ、バランスのよい食事、規則正しい生活、適宜の運動、そしていつも若々しく、おしゃべりなことを大切にした。

所長が代わりました

川島診療所
川島診療所では、八月二日から広瀬寧医師から澤田玲医師に所長が交代しました。

新築移転一周年の記念総会

天沼診療所友の会
猛暑の八月一日午後、二四名が参加して、天沼診療所友の会総会が診療所三階会議室で開催されました。今回は、診療所が移転開設して一周年の記念の総会でもあり、参加者みんな新築移転の成功を喜び合いました。第一部では、来賓あいさつのおと、活動および会計報告、次年度方針と予算、新役員選出などを満場一致で採択。第二部では、藤井所長から診療所移転後の新患調査と区民検診の結果について報告されました。懇親会では、

台風11号の中

やまと訪問看護ステーション
八月三日、台風一〇号の暴風雨の影響をわがステーションでもちよっぴり受けました。朝礼で「きょうの訪問は六件です。がんばって出かけましょう」と所長が話した直後から、キャンセルの電話が相次ぎました。職員を気づかしてキャンセルです。

新築移転一周年の記念総会

天沼診療所友の会
猛暑の八月一日午後、二四名が参加して、天沼診療所友の会総会が診療所三階会議室で開催されました。今回は、診療所が移転開設して一周年の記念の総会でもあり、参加者みんな新築移転の成功を喜び合いました。第一部では、来賓あいさつのおと、活動および会計報告、次年度方針と予算、新役員選出などを満場一致で採択。第二部では、藤井所長から診療所移転後の新患調査と区民検診の結果について報告されました。懇親会では、

聞いて うちのサークル

新たな発見が楽しい

沼診友の会 健康づくり歩こう会



沼診友の会の「健康づくり歩こう会」ができたのは、九九年四月。「桜を見て歩こう」、それも

その年は、六月に北山公園の菖蒲を見に、また一月には多摩湖畔へと、三回実施しました。

二〇〇〇年四月からは毎月一回定例化しようということになり、実行委員を決めて毎月集まり、翌月のプランを検討、チラシを作成するようになり、一人でも多くの方に参加を呼びかけるなどして、自主活動を軌道に乗せ、本格的にスタートしました。

チャラシには、行き先とおおよその所要時間、集合場所・時間、利用する交通機関などを記載。参加費はなし。交通費とシルバーパス、弁当持参です。

現在は参加者の輪も広がりました。一人では外出かける機会も限られますが、みんなで歩くこ

健友会友の会の

秋の企画がびびび

とや都会の中での新たな発見は楽しいものです。そして何より、健康づくりがいちばん！ メンバーは少しずつレベルアップし、健脚組はさらに山のハイキングへ挑戦中です。

食事会活動交流会

「食は生活の楽しみ、人と人の交流の場」と一人暮らしや高齢者の方の食事会を共立友の会、沼診友の会、西荻友の会がとりくんできました。

高齢者の一人暮らしが増えている中で、他の友

役員研修会

健友会の各友の会役員を対象にした「研修会」が開かれます。

今回は、「友の会だより」と機関紙「健友」の手配り体制づくり、友の会の班づくり、役員会の自主的運営など、新たな挑戦の課題をテーマにしています。また、民医連の医療・経営がめざす方向と友の会の役割・あり方をしっかり学びたいと、全日本民医連共同組織委員長・山田駒平氏の講演を計画しています。

の会から「食事会をはじめたい」「食事会の内容を知らりたい」と希望が寄せられ、今回、「健友会友の会食事会活動交流会」を開催することになったものです。

日時 9月5日(水) 午後2時 会場 スマイル中野 C会議室

第6回文化祭

日時 11月28日(水) 会場 なかのゼロ小ホール

医療の知識

乳癌の死亡率は増加傾向を続け、一九九五年の時点で胃癌・大腸癌・肺癌に次いで四位、また乳癌が発症する人は、一九九四年の時点では胃癌と同率で一位となつていま

す。しかし、すべての癌が治らないわけではあり

乳癌の話

早期に見つければ 乳房は残せますよ

中野共立病院 外科医師 山本 英司

乳癌のX線写真を撮影するなどの工夫をして早期発見につとめています。また、その他の診断技術も向上したことや、一人一人が乳癌にたいして関心をもつこととで、早期発見される患者さんが増えています。

乳癌の治療も、以前に比べるとだいぶ変わってきています。乳房と腋のリンパ節と胸の筋肉をすべて切除して、洗濯板のようになる手術は、いまでは行われません。筋肉

を切除しなくても、手術後の再発率に変わりがないことがわかってきたからです。さらに最近では、早期癌であれば腫瘍とリンパ節のみを切除して、放射線治療を加えることにより、乳房を残すことが可能になってきています。また、運悪く乳房を切除しなければならぬ患者さんでも、希望があれば自分の筋肉・脂肪を利用して乳房をつくることも可能です。

腫瘍の大きさが3cm以下で、リンパ節転移のない乳癌では乳房を残せます。2cmでも十分自分でわかります。みなさん、ぜひ自分の乳房に関心をもつて下さい。

紹介します

城西診療所の巻

城西診療所は健友会の中でもっとも歴史の古い診療所です。

戦後まもない一九四九年(昭和24年)二月、医療も生活も困難な中で、



ビルの1、2階が診療所

地域住民・患者さんの切なる思いと、後藤励蔵・マン夫妻の決意によって城西診療所は生まれました。

桃園川のほとりの小さな朝鮮人学校の一部を借りて、診療を開始。その時、診療所には聴診器と気胸の機械とわずかな薬しかありませんでした。スタッフは診療所の二階に住み込みながら、地域の人たちの熱い期待にこたえ、診療を上げていきました。

すなづぶ

全員が自己紹介。診療所や友の会への期待、原水禁大会のようすなどが話され、大いに親睦を深めました。

炎天下の鎌倉日帰り旅行

— 桜山診療所友の会 — 桜山友の会では猛暑の七月四日、参加者三十七名で鎌倉日帰り旅行に行きました。



ケ丘八幡宮 大仏を見学しました。大仏も夏バテ気味に見えるよ。うな一日でしたが、とても楽しい旅行でした。

平和バザーをにぎやかに

— 西荻窪診療所 — 八月四日、西荻窪診療所では、恒例の原水禁世界大会派遣カンパを兼ねた「平和バザー」を開きました。たくさんの方に参加してもらおうと、チャラシ

デイケアが好評です!

— 桃井診療所

利用者に好評の桃井診療所デイケア。昨年四月から週一回ではじまったばかりですが、希望者がたいへん多く、十一月末からは月曜日と金曜日の週二回になりました。



ついでにフル回転。おかげで四万円以上の売り上げがありました。

中野と杉並の区界で...

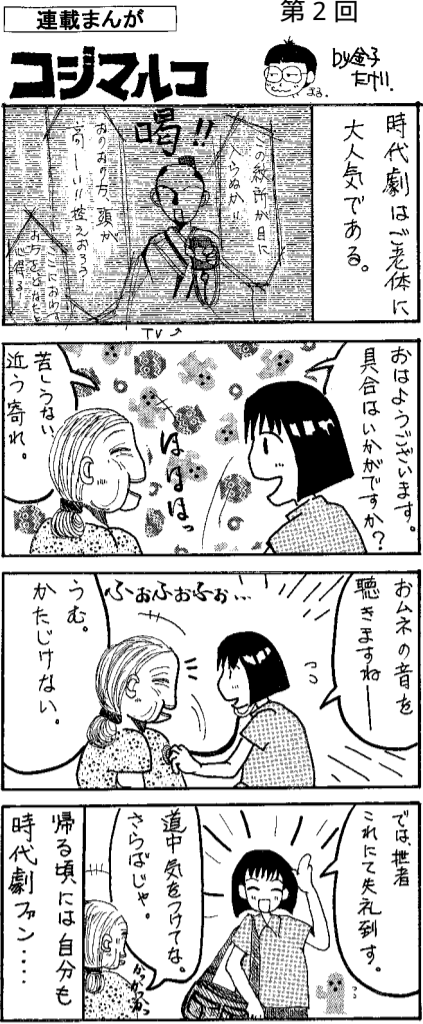


中根所長(前列中央)とスタッフたち

五〇年近く診療を続けた旧診療所と別れ、現在のビルに移転して四年目。現診療所は大久保通り沿いの中野と杉並の区

界にあります。古くから患者さんのもとより、つ子所長のほか、看護婦計六人。ビルの一、二階

を借りていますが、一階は診察室と処置室(物療も)、二階はレントゲン室、事務室、休憩室、友の会室にしています。旧地名の「桃園」のまちおこしのグループに加盟しており、診療所の玄関前にも桃の木が二本あります。普段はめだちませんが、年に一度きれいな花を咲かせ、春の訪れを告げてくれます。(事務・小俣ひろ)



ドクターの素顔

東京・葛飾区の生まれ。父は開業医です。一九八九年、浜松医科大学卒業と同時に中野共立病院に入職しました。大学四年の時、友人に誘われて全日本民医連の「医学生をつどい」に参加。そこでたいへんな衝撃を受け、迷わず民医連の医師になりました。

九七年六月に中野共立診療所ができたとき、初代の所長に。テキパキと仕事をこなす姿が印象的でした。院長と話をひかえ、「もつと速いテンポでレベルアップを」と考えています。趣味はとて幅広、また多才です。虫が好きで釣りキチ。読書好きな文学青年かと思えば、カラオケでサザンオールスターズをはじめ豊富なレパートリーと美声で私たちをウットリさせてくれます。昔、合唱団で鍛えた喉で、学生時代はバイクでツーリングということもしばしばだったそうですが、いまは奥さまに止められて我慢、我慢です。

菊島医師のステキな奥さまは「元患者さん。お礼の手紙と一緒に贈られてきた本。僕が医者をやめた理由」が、二人の交際のはじまりでした。八歳と六歳の子どもたちと山に行ったり、釣りをしたり、ペットのカメと遊んだり元気の源です。

(中野共立診療所看護婦一同)

人望厚く、いつも笑顔の新病院長 中野共立院 菊島郁丸医師(39)



最近、薬局で薬の値段を聞いてびっくりする人の姿を見ます。そんな中で、近所の調剤薬局の方からこんな話を聞きました。「共立病院さんは、ほかの医者より一段安い薬を出しますね。患者のことを考えると、同じ効き目なら安い方がいい」

薬剤師会でも、このことが立ち話になったそうです。薬の選び方にもそれぞれ病院らしさが出るのです。

同じ効き目の薬なら 中野区野方6丁目 匿名希望

「ゲイ」から見たもの

城西診友の会 藤原 梢永

娘が犯罪学を勉強したくてアメリカに留学してから、早一年半が過ぎました。

この間、何度かアメリカを訪れて、日本とは違う価値観にショックを受け、二つの国の教育文化を体験しました。ことしの夏も渡米したのですが、今回は世界最大のゲイパレード(プライドパレード)を見ることのできました。大通りを閉鎖しているいろいろなゲイ(同性愛者)の団体のパレードが行われ、ゲイのカップル、レスビアン

のゲイの両親に育てられた人たちがそれぞれの生き方に誇りをもち、また市民が彼らを受け入れていくアメリカの懐の深さに感動を受けました。

警備しているポリスの傍らでパレードに参加しているゲイのポリスを見て、私の心の狭さ、閉鎖的な思考力にパンチを受けました。

読者のひろば

看護学生の集いで

中野共立病院看護学生担当 小林和苗

八月四・六日、石川県能登半島の羽咋市で第六回全日本民医連看護学生ゼミナール(通称DANS)が行われ、全国から学生約三〇〇人、職員一五〇人が参加。健友会からも学生四人と職員二人(看護婦・高橋睦子と私)が参加しました。

「サンラザ」

中野区中野5丁目 飯島 登

中野駅北口にある「サンラザ」は、一度見たら忘れられない珍しいかたちをしています。

この建物は、一九七三年六月にオープン。その名も「全国勤労青少年会館」というのが正式名称で、「サンラザ」は通称です。

戦前は中野電信隊や陸軍中野学校があり、戦後は警察大校があった。この中野区のと真ん中の広大な敷地に「サンラザ」が建てられたのは、中野刑務所の解

高さ九二メートルの真っ白な建物の裏側が、スパッと切り取られたように三角形になっているのです。

現在のの中野郵便局の場所にあった中野区役所の移転がまず六六年に決まり、六八年に「サンラザ」の建設が決まったのです。

開設祝賀会になぜか私も呼ばれて、出かけていきました。そこへ時の総理大臣、田中角栄氏がやってきて、オレは大学なんか行ってない。努力して今日までになった。若いもんもガンバレ!と、ダミ声で見得を切っていたのを思い出します。

(健友会友の会長)

看護学生の集いで

中野共立病院看護学生担当 小林和苗

八月四・六日、石川県能登半島の羽咋市で第六回全日本民医連看護学生ゼミナール(通称DANS)が行われ、全国から学生約三〇〇人、職員一五〇人が参加。健友会からも学生四人と職員二人(看護婦・高橋睦子と私)が参加しました。

「ほんとうに千羽も折れるのかな」と思いますが、友だちに頼んでくるよ」と折り紙を持って帰ってくれた患者さんや、「包装紙などでもいいかな?」と、いつか鮮やかな包装紙で折ってくれた患者さんがいたり、デイケアのボランティアさんが手伝ってくれたり、たくさんの方に鶴を折ってもらったことが出来ました。

そして、一〇日間くらいで、西荻みなみ調剤薬局と天沼診療所で折ったものもあわせて、みごとに千羽鶴が完成。みんなの平和への思いはこの千羽鶴のついで、代表団の人たちの手で無事、長崎の原爆公園に届けられました。

随筆

私はことし一月、中野共立病院で乳癌の手術を受けました。

乳癌検診は、二〇年来毎年受けていて、昨年七月の検診でも異常なしだったのですが、二二月はじめて片方の胸の半分がカチカチなのに自分で気づき、天沼診療所の外科を受診したところ、乳

中野共立病院での乳癌手術とリハビリ

天沼診友の会 山田よし子(60)

リハビリをするよう図入りのしおりを持ってきて、一日一回指導をしてくれました。そして、抜糸の翌日からはリハビリ室からお迎えが来て、マッサージャーリハビリが

腕が腫れないようにするためのサポーターを使用していますので、毎朝サポーターをつける前に最低五分は自分でもマッサージャーをしています。最近では腋下に厚い本をはさんでいるような感じがなくなり、背中側の腋の付け根のつっぱった感じが柔らかくスムーズになり、マッサージャーがよりやり易くなっています。

看護学生の集いで

中野共立病院看護学生担当 小林和苗

八月四・六日、石川県能登半島の羽咋市で第六回全日本民医連看護学生ゼミナール(通称DANS)が行われ、全国から学生約三〇〇人、職員一五〇人が参加。健友会からも学生四人と職員二人(看護婦・高橋睦子と私)が参加しました。

ことしのテーマは、「Life.命を見つめて」。命の尊さを見つめ、話し合い、大いに学び合いました。

健友会から参加した学生も分科会で「薬害スモン」について発表し、多くの学生と日本の薬害問題について考えることができました。

平和を願って

西荻窪診療所事務 赤羽目知子

西荻窪診療所では七月末から受付に折り紙を用